

道博協ニュース

第43号

発行所 平成5年6月25日
北海道博物館協会
札幌市厚別区厚別町小野幌
事務局 北海道開拓記念館内
電話 011-898-0456
FAX 011-898-2657

第三十二回北海道博物館大会 七月七日・八日 滝川市で開催

第三十二回北海道博物館大会および平成五年年度の北海道博物館協会総会の開催要領についての概要をお知らせいたします。

会期 平成五年七月七八日

会場 滝川ホテル三浦華園

(011-51-3110)

大会テーマ「開かれた博物館

館づくりを旨として」

第一日目 七月七日(水)

受付 9時～9・30分

開会式・総会 議事

(9時30分～11時)

平成四年度事業報告・平成

四年度会計収支決算報告／

会計監査報告／平成五年度

事業計画案について、平成

五年度会計収支予算案につい

て／第三十三回北海道博物館

大会の開催地について／他

表賞式(三名の予定)

特別報告(11時～11・45分

「日本における博物館の現

状」日本博物館協会専務理

滝川市で開催

事、毛利正夫氏

記念撮影・昼食(11・45分

～13時)

特別講演(13時～14・30分)

演題「開かれた博物館づく

り」講師・教職員生涯福祉

財団理事長(前国立科学博

物館長) 諸澤 正道氏

シンポジウム(14・30分～

17時)

テーマ「開かれた博物館づ

くりを旨として」

司会者 小樽市博物館主任

学芸員 土屋 周三氏

提言者

徳別町立博物館 学芸員

地徳 力氏

上士幌町東大雪博物館学

芸員 川辺 百樹氏

夕張市美術館主事 上木

和正氏

根室市博物館開設準備室

学芸員 川上 淳氏

学芸職員部会(17・15～18時)

懇親会(18・30分～20時)

滝川ホテル三浦華園

第二日目 七月八日(木)

滝川市内施設史跡等視察見

学(9時～12時15分)

ホテル・タキカワカイギユ

ウ発見地―道立畜産試験場

―チョッチャンアンティ―

クコレクシヨーン川の科学

館―滝川市美術自然史館・

こども科学館―ホテル―J

R 滝川駅

大会参加料 会員 3,500円

(非会員 5,000円)

懇親会参加費 4,500円

宿泊について

すでに開催要領でお知らせ

しましたように、宿泊は会

場の滝川ホテル三浦華園を

確保しております。シング

ル・ツインの両方があります

ですが、詳細は「道博協大会」

参加者であることを申し添

えて滝川 ☎ 011-51-2122

―二一〇一の滝川ホテル三

浦華園に申込んで下さい。

滝川市内見学箇所御案内

この機会に、今回見学する

主要な施設等を紹介します。

○道立滝川畜産試験所

大正七年、農商務省滝川種

羊場として創設される。本道

の綿羊の改良や増産奨励のた

め道庁がかわって行うことと

なり、昭和七年に庁立滝川種

羊場として独立。昭和三十七

年には、種鶏、種豚の二部門

を増設し、現在の名に変えま

した。

本道における中小家畜の育

種、改良等の名実ともに総合

的な試験研究機関です。

○滝川市美術自然史館

昭和六十一年九月に、美術部

門と自然史部門を複合させた

全国的にも、珍しい施設とし

てオープンしました。美術部

門では、市に縁りのある岩橋

英遠、一木万寿三、上田桑鳩

の三人の画家及び書家の常設

展示室と、各種展覧会のため

の企画展示室をもち、年間十

数回の展覧会を開いています。

自然史部門では、昭和五十

五年八月、市内空知川河床発

見のタキカワカイギユウの化

石標本を中心に、海牛類や恐

竜化石など、地球の誕生から

人類の出現まで、さまざまな

実物標本やレプリカを用いて

興味深く展示しています。

知床博物館協力の活動

本誌四十号で北海道開拓記念館の紺谷事業部長から「博物館の外郭団体を育てよう」という提案がなされている。その「外郭団体」とは「新しい時代に適応できる博物館を支援する」団体のようである（傍点筆者）。

これについては知床博物館でも同じ観点から「協力会」

事業を進めてきた経緯があるので報告することにした。「協力会」は知床博物館が設置された翌、昭和五十四年に生まれた。

以前からある郷土研究会は郷土の自然や歴史を学ぶ同好会組織であり、博物館はこれに対して援助する側にあった。

一方、「協力会」は「博物館の行う事業及び活動に対し積極的な支援をする」ことを目的とする会として発足した。

現在会員は、約百八十名おり、一口（二、〇〇〇円）以上の会員会費をもって基本財源

として発行する郷土学習シリーズ、特別展図録等の書籍類を増刷して、その販売収益を主な財源としている。幸い、これらの書籍類は知床国立公園を訪れる観光客によって、かなりの数量が買い求められ、会の収入の半分以上を占めるようになった。

これらの財源は学芸職員の調査研究活動に対する助成、研究用図書購入助成のほか、特別講演会、サロンコンサートの開催費用の一部として博物館活動に援助されている。

特に近年、ロシア極東地区をはじめ、海外の研究者との交流活動も活発化しており、これに対する支援もなされている。また、博物館を町民の憩いの場とするために行っている野外観察園の整備も、一部協力が関わっている。

このほか、博物館に関係する天文同好会、知床野鳥の会

などの団体活動への助成を行っており、町内の各学校には郷土学習シリーズなどを教材としてクラス単位で使用できる冊数を寄贈している。もちろん、財源の大半が図書販売という「外資」であっても、これを生み出す基本財源は会員会費に頼っている。しかも、会員には会費を納入するだけで行動を伴う活動はない。いわば見返りのない一方通行にもなりかねないのだが、将来ともに継続して支援してもらおうためにはそれなり



毎年1回、札幌メンバーによるコンサートも開かれている。

の努力も必要である。

そのため、博物館の研究報告（年一冊）、会を増刷する郷土学習シリーズ（年一冊）、特別展図録（年一冊）、博物館活動の情報誌「タンネウシ」（毎月）、同じく簡単な普及書としての「オホーツク・ムゼイ」（毎月）のほか、会員証として作成するテレホンカード（年一枚）を配布している。これが会員にとって満足できるものかどうかは別として、会費相当額以上が還元され、博物館としてもほとんど通常業務の中で、しかも協力の資金でサービスを拡大できる利点がある。

協力の活動による出版物の増刷頒布は収益を得るだけではない。他にも大きな効果がある。館費による印刷冊数は博物館、図書館等関係機関に配布するだけでほとんど在庫がなくなる。

一方、斜里町（特に知床）の自然と歴史に関心をもつ一般の人たちも少なくない。この要望に出版物で応えることが博物館活動を紹介する役割

をも担っており、同時に町民の博特館に対する理解を深め、支持を得る有力な手段になっている。

博物館が展示だけで教育機能を満たすことはきわめて困難である。特に当館のような展示替えもままならない小規模博物館においてはなおさらである。これを補完するためには郷土学習シリーズ等の出版物を作成したつもりであったが、協力会の結成によって予期しなかった結果を生むに至った。

地道にかつ確実に行われなければならない調査研究活動の保証。その成果をより多くの町民に届ける、いわば、出前博物館の一方法としての出版物の配布は博物館協力会によって担われている。

（斜里町立知床博物館 館長 金盛典夫）



北海道博物館略史(12)

(4) 郷土博物館等の増加
大正末期から昭和初期にかけて、郷土教育や郷土研究の気運のたかまりの中で、図書館とならんで博物館施設が道内各地に開設されるにいたった。その主なものとして、函館図書館地質学標本室、北見児童図書館(東倶知安村)、函館史蹟館・宝物殿(函館市五稜郭内)、北海道庁商工業勸館(札幌市)、旭川郷土考

一方、既述の函館水産陳列場は函館市産業課の所管であり、その活動は停滞しがちであった。そこで、昭和初期には、函館教育会を中心とする市立博物館建設運動が展開されたが実現するには至らなかった。昭和七年八月、澄宮(三笠宮)の陳列場・図書館行啓を契機に陳列替えが行われ、陳列場の第一館に水産館、第二館に先住民族館の看板が掲げられた。その後、実質的には市立図書館の附属施設のようになり運営されたが、条例の上では水産陳列場であった。昭和八年、水産陳列場は十月一日から一週間を博物館週間として無料公開した。これは北海道初の試みであった。翌年には、さらに全道博物館週間が設けられ、北海道拓殖館、北海道帝国大学農学部附属博物館、厚岸臨海実験所、五稜郭史蹟館などが加わった。特にオホーツク文化の遺跡と遺物の調査・収集につとめていた米村喜男衛は、大正六年に史跡保護と郷土愛の普及を目的とした網走史迹会を創立した。昭和三年には本会を発展的に解散して北見郷土研究会として、自ら幹事長となり、さらに自宅に郷土研究資料陳列室を設けるとともに、「北見郷土研究会報」を刊行した。その後、活動の進展にともないモヨロ貝塚の出土資料やアイヌ民族資料が増加し、それらの保存と公開のための施設が必要となった。そこで、住友の鴻之舞鉱山の地質鉱物学者久保田定次等の理解と協力によって、社団法人北見教育会(会長網走支庁長)が住友鉱山から一万円の寄附を受け、その他の鉱山や管内の町村からも基金を募り、総額約一万五千円の準備ができた。博物館は皇太子殿下御降誕記念事業として、網走支庁管内を単位とする郷土の教育文化の振興に資することを目的として網走町に建設し、展示資料は米村の考古・民族資料



網走市立郷土博物館(旧北見郷土館)

私立函館図書館は岡田健蔵の努力により運営されていたが、昭和三年に現存する鉄筋コンクリート建の新館が完成し、市立函館図書館となった。当時の函館図書館は、岡田館長の意欲的な考えにより、文献などの歴史資料と共に、博物館資料の収集にも力を注いでいた。その結果、大正九年にトラビスト修道院長岡田普理衛が函館教育会に寄贈していた地質・館物標本や図書館が収集した植物・貝類標本を図書館の一部に展示し、地質学標本室(地学室)と称していた。

(5) 函館図書館地質学標本室の開設と函館水産陳列場の陳列替え
私立函館図書館は岡田健蔵の努力により運営されていたが、昭和三年に現存する鉄筋コンクリート建の新館が完成し、市立函館図書館となった。当時の函館図書館は、岡田館長の意欲的な考えにより、文献などの歴史資料と共に、博物館資料の収集にも力を注いでいた。その結果、大正九年にトラビスト修道院長岡田普理衛が函館教育会に寄贈していた地質・館物標本や図書館が収集した植物・貝類標本を図書館の一部に展示し、地質学標本室(地学室)と称していた。

(6) 北見郷土館の設立
大正二年、網走に移り、理髪業を営みながら考古資料、資料は米村の考古・民族資料

約三千点が提供されることになった。建物の設計は田上義也に委託し、工事は六戸組が請負って十年十月に着工した。工事は翌十一年春に完成して展示作業が行なわれ、この年の六月に、日触観測のために来道した科学者に公開された。開館式は十一月三日に挙行され、館長に北見教育会長、主事に米村が就任した。こうして、北海道初の本格的な郷土博物館が誕生した。

《主な参考文献》
『北海道教育史・全道編四』(昭和三十九年三月)、『函館博物館一〇〇年のあゆみ』(昭和五十四年五月)、米村喜男衛「モヨロ貝塚」(昭和四十四年十月)、『モヨロ三号―米村喜男衛さんをしてのんで―』(昭和五十一年三月)

※写真・米村哲英氏提供
(北海道開拓記念館 学芸部長 関 秀志)

館園紹介

函館市北方民族資料館

このたび、平成五年四月一日、装いも新たに函館市北方民族資料館が開館しました。

当資料館は、平成元年十一月より平成五年三月まで函館市北方民族資料・石川啄木資料館として親しまれてきましたが、従来の北方民族資料の展示内容を一新・充実を図り、独立館として新装開館することになりました。

資料館は、旧日本銀行函館支店跡を新たに展示・改修を



函館市北方民族資料館の展示

行い一階、二階に約六〇〇平方メートルの展示スペースを配し、北辺の地で伝統的な固有の文化を有したくましく生きた北方民族の生活用品の数々を「北方民族資料・HAKODATE COLLECTION」として紹介するものです。

周知のとおり、函館市が世界に誇るこれらのコレクションは、明治十二年、わが国における地方博物館の先駆けとして開館した開拓使函館支庁仮博物館時代に開拓使等によって収集された「函館博物館旧蔵資料」や昭和初期に函館出身の北方考古学・民族学の権威馬場隆が北海道、樺太、千島から収集した国の重要有形民俗文化財を含む「馬場コレクション」、第二次世界大戦前後に元北海道大学名誉教授児玉作左衛門によって北海道、樺太等から収集された「児玉コレクション」からなり、

アイヌ絵などの文献・絵画資料によって展示紹介しています。このような展示資料や北方民族の生活様式をより具体的に知り身近かに知っていただくために、「観たい時が、知りたい時。」をキャッチフレーズにコンピュータシステムによる映像検索システム「インフォメーションQ&A」コーナーを新設し、展示テーマに沿って展示資料や北方民族に関する情報を提供しています。

（函館市北方民族資料館案内）
開館時間 午前九時～午後七時（四月～十月）
午前九時～午後五時（十一月～三月）
休館日 十二月三十一日、一月三日
*館内整理のため臨時休館することがあります。
入館料 一般三〇〇円（二館五〇〇円 三館七二〇円）
学生・生徒・児童一五〇円（二館二五〇円 三館三六〇円）
*二十名以上の団体は二割引き（共通入館券を除く）
（一）内の二館共通入館券は函館市北方民族資料館、函館市文学館、重要文化財旧函館区公会堂のうち二館いずれかを利用した場合の共通入館券の料金。

また、これら民族資料による研究機能も充実し、資料館として親しみながら学ぶことができる活きた博物館づくりを取り組んでいきます。

また、これら民族資料による物質文化・精神文化の紹介と合わせて、江戸時代を中心とした蝦夷風俗等の歴史的背景における北辺事情を地誌・

また、これら民族資料による物質文化・精神文化の紹介と合わせて、江戸時代を中心とした蝦夷風俗等の歴史的背景における北辺事情を地誌・

館長 長谷部 一弘
TEL・FAX 〇一三八一
二二一四二二八

館 園 紹 介

江差追分会館

へ かもめの鳴く音に

ふと目をさまし

へ あれが蝦夷地の

山かいな

江差追分では知られる江差町は、道南の渡島半島西海岸に位置し、アルファベットのB型のような地形で北部は農耕平野部、南部は海岸沿いに漁業、背後丘陵地は商店街や官公庁が集積した市街を形成しています。

江差町は「北海道文化夜明けの地」として江戸末期には人口三万人を越え商業、文化の町として栄えてきましたが、その後商業の近代化とともに人口の流出が続き、現在では一万二千人となっています。今から凡そ八百年前、江差に和人が住み着くようになり、特に江戸期松前藩政下における江差は、日本海の交易船「北前船」によってニシン、ヒノ

キの移出や生活物資の移入港として繁栄を極め「江差の五月は江戸にもない」といわれ、

江差追分をはじめとする有形無形の数多くの遺産を残しておりです。

江差追分は天明年間に信州北佐久郡追分付近の街道を上下する馬子によって唄われていた馬子唄が参勤交代の北陸武士や旅人によって越後に伝わり、蹄の音が浪の音、山野のメロディーが海辺のメロディーに変化して越後追分となり、船乗り唄に唄われ北前船によって蝦夷地に伝わり、ケンリヨ節と合流し蝦夷地という辺境の荒い波濤の中で哀調を加え、江差追分が生れたといわれており、この過程で追分の原型に近く哀愁をおびて唄い伝えられたのが「江差三下り」であり、ケンリヨ節と合流し地味で悲哀の感情をこめ「二下り」の調子が変わって唄い継がれたのが江差追分だといわれております。

江差追分会館は、かつてのニシン漁の繁栄を物語る土蔵造りをモチーフにした建物で、

かもめの鳴く音と波の音が聞こえる江差港の近くにあり、館内に一歩足を踏み入れ

ると、追分の調べが低く流れ、江差ならではの「追分の殿堂」でじっくり本場の追分の世界がひろがります。資料展示室では江差追分の生い立ちと変遷をたどる興味深い資料の数々と、追分の歴史と関わりのある民俗資料を展示しており、古い漁家の内部を再現したコーナーでは、板の間の炬を囲んで座り、往時の追分名人の貴重な唄をヘッドフォンで自由に聴くことができます。演示室の江差屏風絵を描いた豪華な緞帳が印象的な舞台で

は、四月末から十月までの毎日、江差追分をはじめ江差に伝承される数多くの郷土芸能の実演や近代的な映像と音響の設備を駆使して、江差の町の概要をまとめたスライド「江差の唄」や「北海道の夜明け」を希望に応じて上映しています。江差追分を会得したいと願う人なら江差町民に限らずどなたでも、いつでも気軽に「追分道場」を利用することができ、江差追分の師匠たちが毎日指導しております。

江差追分会館のご案内

★開館時間

午前九時から午後五時

★入館料

大人 三百円（共通券五百円）
子供（小、中、高生）百五十円（共通券二百五十円）

（団体割引二十名以上二十％引き）

★休館日

四月末～十月無休

十一月～四月一日曜日と祝祭日の翌日

★江差追分、郷土芸能の実演

◎実演期間

四月末～十月の期間中は毎日実演

（六月第四日曜日、九月第三土・日・月曜日は追分大会開催等のため実演は中止いたします。）

◎開演時間

毎日午前十一時・午後二時の二回実演

◎特別実演

ゴールデンウィークと八月十日～十一日（姥神祭期間）
午前十一時・午後一時・午後三時の三回実演

※上記日程の料金は無料

★交通

JR函館駅より約一時間半、江差駅下車タクシーで約五分

JR函館駅前より函館バスで約一時間半江差町中歌町で下車、徒歩で一分

★お問い合わせ先

〒043 北海道檜山郡江差町字中歌町百九十三番地 江差追分会館

電話 〇一三九五一一

〇九二〇



江 差 追 分 会 館 全 景

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

国連が定めた「世界の先住民の国際年」である今年には内外でさまざまな関連事業が計画され実施されつつあります。世界の先住民文化が共通に抱えている問題のひとつは自分たちの民族文化をどのようにして守り、発展させていくかという課題ですが、このように課題に対応する機能を有する施設として博物館への関心も高まってきているようです。



平取町立二風谷アイヌ文化博物館全景

平取町立二風谷アイヌ文化博物館は、展示をふくめた館運営全般の基本理念を「アイヌ伝統文化の今日的継承」としています。これはごくかんたんにいえば、アイヌ民族の伝統文化を現代に受け継ぎ、新たな創造に結びつけようという意味です。「滅びつつある」「失われつつある」「だから保存すべきだ」というのではなく、博物館の資料が人々、とりわけその文化の本来の担い手であるアイヌの人たちによって積極的に活用されるべきであるという観点に立った提言でもあります。

さて、その博物館ですが、一昨年に建物完成し、昨年四月二十五日に開館記念式典を行ったばかりのまだ新しい館です。ユニークな外観デザインは大きな木の根元を象っており、その洞の中に大切なものをしまおうという発想をモチーフにしています。

館内には、展示室のほかに視聴覚室、実習室、伝承サロン、研究室などがあります。

常設展示は大きく三つのゾーンに分けて展開されており、「アイヌ」「カムイ」「モシリ」というアイヌ文化を理解するためのもっとも基本的なキーワードが各々のゾーン名にあらわれています。第一のゾーン「アイヌ」人々のくらしでは、育児・遊戯娯楽・容器・衣類・住居などの分野を中心に古い生活用具類を展示してあります。「カムイ」神々のロマンは折りや信仰・伝説・物語などの精神文化にふれるためのゾーンです。「モシリ」大地のめぐみでは、狩猟や農耕、運搬、それに葬送などに関する資料を展示しています。また、伝統を活かして作製されている民芸品類を作者とともに紹介しています。

館内には、展示室のほかに視聴覚室、実習室、伝承サロン、研究室などがあります。常設展示は大きく三つのゾーンに分けて展開されており、「アイヌ」「カムイ」「モシリ」というアイヌ文化を理解するためのもっとも基本的なキーワードが各々のゾーン名にあらわれています。第一のゾーン「アイヌ」人々のくらしでは、育児・遊戯娯楽・容器・衣類・住居などの分野を中心に古い生活用具類を展示してあります。「カムイ」神々のロマンは折りや信仰・伝説・物語などの精神文化にふれるためのゾーンです。「モシリ」大地のめぐみでは、狩猟や農耕、運搬、それに葬送などに関する資料を展示しています。また、伝統を活かして作製されている民芸品類を作者とともに紹介しています。

展示室中央にはユカラ(叙事詩)やウエベケレ(昔話)を鑑賞できるビデオステージがあります。ここで聞けるのは珠玉の文芸作品、これはお奨めです。また、アイヌ文様を描いてみることで、来館の際にもありますので、来館の際にはお試しください。

伝承サロンは、展示や講演会、団体入館者へのガイダンスなどに使用する多目的のスペースです。今年秋には国際先住民年を記念し、当館としては初めての特別展「現代のアイヌ木工芸一九九三」がこの会場に開催する予定です。

博物館のそばには伝統的な様式の復元家屋(チセ)や、貯蔵庫、熊の檻なども配置されています。また、館周辺はアイヌ文化とかがわりの深い樹木を計画的に植樹し、その利用方法や館内に展示されている民具との関係、木にまつわる伝承などを学習できる標本樹木園として整備を進めています。三年後には沙流川総合開発事業の関連で続けられてきた発掘調査の出土品を取藏・展示するとともに流域の自然や河川の機能について紹介する機能を備えた国の施設が当館に隣接して建設される予定です。将来的には、これらの建物と野外施設等を有機的に結び付けた知的なレクリエーションのエリアを作っていくという構想です。

館事業の面では、シンポジウムの開催、民族舞踊や伝統工芸の体験学習講座開設、パスタアの実施、所蔵資料目録の刊行など徐々にメニューを広げつつあると聞いています。

アイヌ文化を核にした地域ぐるみのカルチャーセンター、これが「アイヌ文化の里二風谷」のひとつの将来像であり、それを実現するための拠点施設



二風谷アイヌ文化博物館の展示

設としての役割が当館には期待されています。
 なお、当館の前身「二風谷アイヌ文化資料館」の建物は、新しく私立の「菅野茂アイヌ記念館」として利用されています。

館・園の主な行事計画

風谷五五番地
 Tel〇一四五七二二二八九二
 (二風谷アイヌ文化博物館
 学芸員 米田秀喜)

7月～9月

〔二風谷アイヌ文化博物館利用案内〕

★開館時間

午前九時三十分～午後四時三十分まで

★休館日

年末年始(十二月十六日～一月十五日までの一カ月間)

★入館料

小中学生百五十円
 大人 三百円
 (二百五十円)

★交通案内

JR富川駅から振内・貫気別方面行バス、JR札幌駅・苫小牧駅から日高町行特急バス、どちらも二風谷

★問い合わせ先

〒561-01 平取町二

- ・三笠市博物館
- 7・15～10・31 「昆虫化石展」
- ・夕張石炭博物館
- 6・15～7・31 「昭和30年代・夕張」 9・15～10・31 「夕張市制50年」 8・9～16 「キヤンプラン見学会」
- ・美唄市郷土史料館
- 5・28～6・28 「館所蔵資料展」
- 9・19～11・7 「渡り鳥―マガンとの共生」展
- 7・9～26 「手作り人形展」
- 8・1～22 「点画展」
- ・岩見沢郷土博物館
- 4・29～6・30 「郷土の野鳥展」 9・11 「植物(野草)観察会」 8・24～25 「星座教室」
- ・砂川市公民館郷土室
- 8～10月 「全国玩具展」
- ・滝川市美術自然史館

- 7・3～8・1 「竹久夢二展」
- 8・6～8・8 「高倉道子ハッチワーク・キルト作品展」
- 8・15～9・19 「丸木俊・丸木位里絵本原画展」 9・23～9・26 「盆栽展」
- ・滝川市郷土館
- 7・18及び9・12・11・7 「蓄音器コンサート」
- ・滝川市航空科学館
- 7・30 「航空科学館まつり」
- ・登別市郷土資料館
- 7・10 「資料館で昔の生活を体験しよう」
- 8・15 「火打石を使おう」
- 9・11～10・9 「風を作って掲げよう」
- ・室蘭市民俗資料館
- 6・9～7・20 「華燭の典」展
- ・苫小牧市博物館
- 7・18～8・22 「苫小牧一二〇年の歩み」展、7・28 「昆虫観察会」 8・8 「自然観察会」 9・26 「知ろう苫小牧(地層)」
- ・八雲町郷土資料館
- 8・1～11・3 「北海道の化石展と八雲の本影熊展」 8・22 「親と子の史跡見学会」
- ・伊達市開拓記念館
- 7・27～8・23 「夏季特別展」

- ・札幌市資料館
- 4・6～7・25 「俳誌「アカシア」五〇〇号記念展」
- 8・3～11・28 「札幌文学散步展」
- ・北海道開拓記念館
- 6・11～7・11 「イヌイット・アート」 7・28～9・23 「カナタ・アルバート州 先住民族の文化」
- 10・6～11・3 「新収蔵資料・アイヌ絵」―妻沼コレクション紹介―アイヌ民族史講座
- ②青山英幸氏・竹ヶ原幸明氏、8・15 (同)③「世界の先住民とともに」チカップ美恵子氏、9・12 同③「北東アジアの民族文化」萩原真子氏、9・26 同④「アイヌ語とその周辺言語、大島稔氏・津曲敏郎氏
- ・北海道開拓の村
- 6・27 「昔の遊び選手権大会」 7・24～8・8 「開拓の村夏祭り」 7・25 児童写真会、8・1 写真撮影会 9・18・19 「秋のふるさとまつり」他
- ・北海道立近代美術館
- 6・26～7・20 「北岡文雄の世界」 7・25～8・29 「ゴーギャンとボン・タウアン派展」、

- 9・4～10・3 「東山魁夷―青の世界」
- ・札幌市青少年科学館
- 6・24・25 「日曜実験室」女性科学講座 7・10 「工作教室」①、7・24～8・15 「特別展科学のおもちゃ箱」、8・1・6～8・15 「夏休み工作会」 9・5・11・23 「日曜実験室―みんなの楽しい実験広場」
- ・札幌円山動物園
- 7・26～29 「一日飼育係」 7・31 「子ども昆虫教室」 8・1 「水のプレゼント」、8・4・5 「夜の動物園見学会」、8・6～8 「さっぽろ夏のカーニバル」、9・15 「長年飼育動物特別メニュー」、9・21 「動物慰霊祭」
- ・江別市郷土資料館
- 7・10・18 「古代史体験・土器づくり」、7・18 「遺跡体験発表」、8・5・6 「蝶の標本づくり」
- ・苫小牧市科学センター
- 7・28・29 「夏休み屋外科学教室」 8・4・5 「夏休み親子工作教室」 8・10・11 「工作・科学相談室」

- ・室蘭市青少年科学館
 - 6・19、23「さつき展」
 - 10・15、17「盆栽展」
- ・恵庭市郷土資料館
 - 7・27、9・26「アンモナイトの世界」展、10・9、11・28「開拓時代の技(わざ)」ミニチュア農具の世界」8・7
 - 「夏の天体観測会」9・19「恵庭のきのこ」観察会、9・30
 - 「秋の名月観察会」
- ・小樽市博物館
 - 7・17、8・29「昭和30年代」展、8・1「ニシン場の跡を訪ねて」8・15「北のくらし」
 - 8・22「昆虫観察会」
 - ・市立小樽文学館
 - 7・31、9・12「海の聖母」詩人吉田一穂」
 - ・(財)荒井記念美術館
 - 7・13、10・17「ピカソと日本」
 - ・高橋幸男の世界」
 - ・神田日勝記念館
 - 8・12、17「地元作家作品展」
 - ・釧路市立博物館
 - 6・26、27、7・17、18・8・21、22・9・18、19「春採湖畔植物・野鳥観察会」、7・24、8・22「生活用品・用品展」、7・11「厚岸の自然と歴史」観察会、9・5「歴史探訪会・まちなみ散歩」、9
 - ・11・12「探鳥会・風連湖と霧多布湿原」
 - ・士別市立博物館
 - 6・13、27「新着資料展」、7・10、8・29「和泉雅子・北極点遠征展」、9・4、9・19「日本版画協会巡回展」
 - ・北網圏北見文化センター
 - 8・14、9・12「京都国立美術館所蔵・長谷川潔展」
 - ・北海道立北方民族博物館
 - 7・20、9・19「北方諸民族と現代の民族芸術」、8・1「北欧サミのひも作り」、9・12「アムール中流域の鞆・女真文化」
 - ・網走市立美術館
 - 6・17、6・27「さくらの絵道書道展(網走移動展)」8・5、8・22「安德展展」、9・1、5「全道展(網走移動展)」、9・9、15「管内高令者作品展」
 - ・上富良野町郷土館
 - 8月上旬、「夏休みかみふらのツアー」(バス利用)、11・1、30「上富良野町生植草木・漢方標本展」(フォートコンテスト写真展)
 - ・上ノ国町郷土館

事務局通信

6、8月「勝山館跡発掘体験」
 新年度の人事異動等により、次のとおり、役員の変更がありました。

（副会長）石川 浩氏

（道立近代美術館副館長、佐藤修一氏後任）・藤島勝美氏

（アイヌ民族博物館館長、熊野末太郎氏後任）

（理事）関原隆男氏（北網圏北見文化センター館長、大原利夫氏後任）・廣谷行厚氏

（小樽市博物館館長、栗原弘茂氏後任）

（監事）清水芳春氏（留萌市海のふるさと館館長、今野啓吾氏後任）

事務局日誌

4・1（木）事務局員交替（野村事務局長他）

4・9（金）第3回役員会札幌市、雪印ホール）

4・13（水）事務局打合せ

4・22（木）青少年科学館関係職員研修会総会及び館長会議（千歳市民文化センター）

4・28（水）32回大会現地打合せ

5・19（水）道東三管内博物館施設等連絡協議会総会

5・19（水）32回大会案内、会費請求書発送

お知らせ

開拓記念館の業務分担変更により、5年度の事務局体制は次のようになりました。

事務局長 野村 崇、次長 丹治輝一、事務局員 小田島 和平、氏家 等、熊谷 弘

会費納入のおながい

団体一万五千円、個人三千円です。拓銀新さっぽろ支店

（普）一八六一二八七〇〇〇

は、郵便振替、小樽七二九九

四一九北海道博物館協会迄。

（個人会員）石橋孝夫、工藤義衛